

事業計画書

10

1. 事業名称 シニア交流センターにおける生涯学習実施事業

2. 実施主体

■ 団体名： 松戸市認定社会教育関係団体 やよい会

■ 事業担当課： 高齢者福祉課

3. 取り組もうとする課題（テーマ）と事業

課題：高齢者を対象とする生涯学習を行うことで、1人でも多くの元気高齢者を増やすこと。

松戸市シニア交流センターで実施し、この施設の利用度を高めることに資すること。

急速に進む高齢社会において、国がかかえる大きな問題は、高齢者の医療費用・介護費用等の急増である。その対策として、まずは当事者が己の心身の健康の大切さを自覚し、元気・健康である為の最大限の努力をすることが喫緊の要事である。その手助けの一つとして、生涯学習の重要性が唱えられて久しい。

やよい会は、この8年間微力ながら高齢者を対象として、健康と福祉をメインテーマに生涯学習(自主企画講座)に取り組んできた。これまでの経験と実績を活かし更に内容を充実させたものに取り組んでいきたいと考えている。

やよい会は、これまで学習の場として市中心部に位置する市民会館、市民劇場、ゆうまつど、を利用してきた。これらの施設は利用者多く、会場確保に難儀してきた。それに引き換え、高齢者のための施設として平成18年に設立された松戸市シニア交流センターは、立地の不便さ等から市民の認知度は高くなく、会議室の利用度はあまり高くない。これはもったいないことである。大いにPRして認知度を高め利用度を高めるべきである。この観点から、やよい会はここを会場として使用しその存在を大いにPRしたい。

事業：シニア交流センターにおける生涯学習実施事業

4. 事業目的と成果目標

- この生涯学習事業の目的は、1人でも多くの元気高齢者を増やすことであり、元気高齢者が充実した、生きがいある人生を送るため自己の能力を高め、努力することを支援することである。
- シニア交流センターで実施することにより、センターの存在を周知し、利用度を高めることを目的とする。
- 継続して実施することにより、その効果をより高める。

講座内容案(一例)

No.	年 月 日	講 座 名	備 考
1	平成 22 年 10 月 02 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30	超高齢社会をいきいき 生きる法	医師
2	10 月 09 日 (金) 10 月 10 日 (土) 14 : 00 ~ 15 : 30	特別養護老人ホーム 「陽光苑」見学 旭町 2 丁目-238 番地	特別養護老人ホーム「陽光苑」 施設長
3	10 月 16 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30	高齢者の資産管理	ファイナンシャルプランナー
4	10 月 23 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30	介護保険の最近の状況	松戸市介護予防推進担当室 看護師長 または 相当者
5	10 月 30 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30	躍動するアジアの世紀	学者
6	11 月 06 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30	医師のすすめる ウォーキング	日本ウォーキング協会所属医師
	11 月 06 日 (金) 17 : 00 ~ 19 : 00	意見交換懇親会(希望者)	

場所は見学以外シニア交流センター大会議室

募集人員 : 50 名 受講料 : 1 講座 100 円

8. 将来の展開

- この事業を実施することにより、また地道なPR活動を繰り返すことにより、シニア交流センターの認知度は徐々であっても高まる。他の団体・グループも注目するところとなり利用度が高まりフル活用されるようになる。
- やよい会としては、協働することにより資金・情報支援が得られ、より幅広く質の高い講座の企画・立案・実施が可能となる。
- 受講者の中から、受講するだけでなく自らグループを結成し、生涯学習に挑戦する元気高齢者が出てくるのが期待できる。

事業の予算計画

[社会資源持ち寄り (収 入)]

	(自己資金)	金額	積算内訳
	提案者	やよい会会費	12,000 円
社協助成金		12,000 円	平成 19 年度社協助成金同額計上
受講料		25,000 円	@500 円×50 名
自己資金合計 (a)		49,000 円	
労力換算額 (b)		95,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	141,000 円	
資金合計額 (d) (a+c)		190,000 円	

[負担金申請額 (c) チェック項目]

- 1 対象となる経費 (e) 欄の 90%以内
- 2 1 事業あたり 50 万円以内
- 3 自己資金 (a) 欄に労力換算額 (b) 欄を加えた額以下であること

[事業費の積算 (支出)]

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講座講師謝礼金	120,000 円	@40,000 円×3 名=120,000 円
	講師謝礼品	6,000 円	@3,000 円×2 名=6,000 円
	施設見学謝礼	5,000 円	@5,000 円×1 箇所
	広告チラシの印刷	5,000 円	PC インク @1,000 円×5=5,000 円
	消耗品費	10,000 円	用紙類、その他消耗品
	ボランティア行事保険	7,000 円	@28 円×50 名×5 回=7,000 円
	通信費	5,000 円	
	対象となる経費合計額 (e)	158,000 円	
その他経費	スタッフ飲食費用	8,000 円	@100 円×5 名×16 回=8,000 円
	スタッフの交通費	24,000 円	@300 円×5 名×16 回=24,000 円
	その他経費合計額 (f)	32,000 円	
事業費 (g) (e+f)		190,000 円	収入合計額 (d) と同額

労力換算計算書

	項 目	換 算 額	積 算 内 訳
労 力 換 算 額	活 動 計 画	/	人数×時間×回数×500円
	講座準備打合せ (10回)	50,000円	5人×2時間×10回×500円
	講座従事 (6回)	45,000円	5人×3時間×6回×500円
	合 計	95,000円	



1. 事業名称 小・中学生向け金銭教育事業

2. 実施主体

■ 団体名：特定非営利活動法人 おかねの楽校

■ 事業担当課：生涯教育本部 企画管理室

3. 取り組もうとする課題（テーマ）と事業

課題：子どもたちに健全な金銭感覚と正しい知識と将来の夢を持ってもらう

現状は、

- ・ お金が原因の一つとなっている事件が多い
（万引き、コンビニ強盗、女子高生がお金欲しさに自分の裸の画像を売る、など）
→少額（あえて少額といいます）のお金のことで人生を狂わしている
- ・ ニートなど就労しない者、就労しても短期間で退職してしまう者が多い
- ・ “夢”を持っていない子どもが多い

問題点は、

- ・ お金は、必要なものや欲しいものを手に入れるためのツールであることを知らない
- ・ 夢（“欲しいもの”や“やりたいこと”）がなく、お金が目的になっている
- ・ お金は働いて得るものであることの実感がない
→給料は振込→お金は銀行に無尽蔵にあると思っている
- ・ 「お金」について学ぶ機会がない
→親が学んだことがないために子供に教えるスキルがない
- ・ 就労の経験が少なく、就労意識が薄い

事業①：小学校高学年向け金銭教育講座『おかねの楽校』の開催

- ・ 子どもがお金に対する正しい認識を持つ
- ・ 自分の夢や仕事や将来のことを考える
- ・ 働いてお金を得ることを実感する

事業②：小・中学校向け講座プログラムの作成と学校での講座の実施

- ・ 「お金」について学ぶ機会の増加

事業③：“おこづかいゲーム”の実施

- ・ 子どもがお金に対する正しい認識を持つ
- ・ 自分の夢のことを考える
- ・ 「お金」について学ぶ機会の増加

事業④：保護者向けセミナーの実施

- ・ 子供を取り巻く大人が、子供に正しいアドバイスを送れるようにする
- ・ 親の「お金」について学ぶ機会の増加